令和６年度 地域の元気づくり（次世代育成支援）事業報告書

西粟倉村老人クラブ連合会

①地域の概況	西粟倉村は、県北東部中国山脈の谷あいにある人口約 1400 人に満たない小さな村である。 I ターンや U ターン者は、あるものの人口は減少傾向である。65 歳以上も、496 名で年々減少している。 （ R7.1.31 現 ） 移住者は、約 15%をしめていて、児童生徒数は中学校 52 名・小学校 65 名で幼稚園児 21 名とほぼ変わっていない。老人クラブ会員は、加入を呼びかけるも自然減や施設入所の方もあり減少傾向が続いていて会員数は、260 名弱である。若手会員（65 歳から 70 歳）の加入にも力を入れたい。 女性会員の方が多いが、近年は男性会員の奉仕活動等で活躍がみられる。
②活動状況	吊るし柿づくり体験 １．期 日　　令和 6 年 10 月 21 日（木）　９時～12 時 ２．場 所　　いきいきふれあいセンター ３．参加人数　クラブ会員　18 名（男性 7 名・女性 11 名） 幼稚園児 10 名　先生 2 名 事務局　3 名 ４．活動内容 毎年とても好評な、吊るし柿づくりに取り組むこととした。 吊るし柿は、古くから作られている保存食で、渋い柿が甘くなる不思議を体験する。吊るし柿には、西条柿を使い皮むきと柿を吊るす作業を子供たちと一緒に体験しながら交流を深めることを目的とした。幼稚園の年長組（ぞう組）の子供達と交流する。 当日は、9 時に集合し会場設営とおにぎり作りを同時進行で行った。 園児との交流は、10 時から 11 時の予定で行った。 園児と先生たちは、「おはようございます！！」と元気いっぱい会場に入ってきてくれて会場が一気に活気づいた。 最初に園児と老人クラブ会員と挨拶をしてから、園児たちの自己紹介、地区とおじいちゃん・おばあちゃんの名前も答えられる範囲で紹介してもらった。可愛い自己紹介に自然と笑顔であふれた。 作業は、ケガのないようゆっくりと開始した。 園児 1 人と会員 1 人がペアになって、柿の皮を剥く段取りだ。 10 個の西条柿・皮むき用のピーラー・吊るし紐と子供軍手をセットしたカゴを持って作業に取りかかった。 会員が優しく声かけし、園児たちは、柿を持つ手に軍手をはめ丁寧に 1 つまた 1 つと柿の皮を剥いていく。 仕上げは、大人（会員）がおこなった。先生方も 10 個の柿の皮むきに挑戦。 園児・先生・参加した会員みんながとても楽しげだった。

	10 個の皮むきが出来たら紐に柿を吊るします。柿と柿が触れない様に柿のヘタを紐に通し 10 個吊るせたら完成だ。10 個吊るすとずっしり重い。子供たちは、完成した吊るし柿を両手で持って記念撮影をした。あいさつをして交流を終えた。 その後は、少し休憩し各自水分を補給。 残りの柿の皮を剥き紐に吊るした。一部の柿はドライアイスを入れてビニール袋を密封し合わせ柿とした。 幼稚園へ園児の吊るした柿と作り方のプリント・焼酎を届けた。 参加した会員は、吊るし柿とあわせ柿とおにぎりを持ち帰った。 吊るし柿づくりには、気温が低く空気が乾燥している晩秋から冬が適している。風通しの良い場所に吊るすが、天候によりカビが発生しやすい為、蒸留酒（焼酎）を吹きかけておく。2 週間から３週間で美味しい吊るし柿の出来上がりだ。各家庭にて管理した。
③活動の効果	昔は、どこの家庭の軒下にもつるし柿が沢山かけられ、柿の皮は干しておやつにもなっていたそうだ。だんだん家庭でも作ることが少なくなってきた吊るし柿だが、懐かしい風景を思い起こしながら作り方を伝えることができた。園児・先生と交流することができるよい機会となった。子供・先生・会員みんなが笑顔で楽しい取り組となった。今年で４回目となり村内の子供達 39 名と吊るし柿を作る事が出来たことになる。地域の子供たちを見守り成長を願う気持ちが毎年強まっている。参加した会員は、参加して良かったとやりがいを感じていた。持ち帰った吊るし柿は、各自で管理した。美味しい吊るし柿が出来上がるのを待った。 会員は、吊るし柿の様子を情報交換しあった。 古き良き時代を回想し幼稚園の年長組の子供たちと今年もふれあうことができ次世代交流の大切さを感じている。 伝承そして地域の活性化におおいに役立った。 また来年も是非できるようにという声が多かった。
④課題・問題点	吊るし柿づくりの最適な時期と学校行事等を考慮しながら日程の調整をした。コロナ禍も落ちついてきていたが、手洗いに心がけ、マスクを着用して実施したが不安がゼロではない。 今後も安心・安全に楽しく実施することを重視し会員の健康維持につながるような取り組みを心がける。 ４回目となる吊るし柿づくりだったが、今年は昨年までのような吊るし柿ができなかった。うまくできないこともあるのかと、とても残念だった。天候と気温が原因と思われた。実施日の翌日と翌々日が雨で湿度が高く温かかったことでカビが発生した。 焼酎もしっかり噴霧したがカビを抑えることができなかった。 子供たちにとっては、初めての体験で食べるのも初めてになるとこだったのにと思うと申し訳なかった。 活動の日程については充分な検討が必要。 失敗しない吊るし柿の作り方についても準備が必要。

⑤今後の進め方	先人の知恵や文化の継承と地域の魅力を子供たちに伝えられるよう事業に取り入れながら継続したい。 情報交換や地域交流さらに地域の活性化と見守りや地域交流につながるよう声掛けをする。 地域交流の内容や開催時期など、検討が必要となるが事業の実現に向けて努力したい。 吊るし柿づくりの条件を再確認 ・風通し良く直射日光が当たり雨のかからない場所 ・日中の気温１５℃以下になる頃が最適 ・柿同士がくっつかないように吊るす ・雨天の場合は、室内に移動させ風通しを良くする

老人クラブ
次世代育成事業　吊るし柿作り